

校内研修マスタープラン

平成23年4月1日

校内研修推進委員会

1 学校の概要

〈生徒数・学級数（平成23年4月1日）

| | | | | | |
|--------|----------------------------|-----|-----|-----|-----|
| 学校名 | 中央区立日本橋中学校 | | | | |
| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 3 | 4 | 3 | 10 | 19 |
| 生徒数 | 106 | 146 | 111 | 363 | |
| ホームページ | Nihonbasi-jh@chuo-ky.ed.jp | | | | |

2 本校における学力と社会性に関する課題

区内小学校卒業生の約5割が私立・公立中等学校・国立大付属中学校等へ進学する現状があり、各種テストや文科省・都・区の学力に関わる調査結果を見ても、本校に入学してきた生徒の約4割に基礎学力の不十分な状況が見られる。加えてここ数年、学力の二極化傾向も顕著になりつつありそのことあいまって、社会生活の基礎となる社会性が十分身につけていない生徒も増加している。

自制心や規範意識の希薄な生徒、感情のコントロールが未熟で集団生活や授業のマナーが身につけていない生徒、自己中心的で教師の話や指示をきちんと聞けない生徒、対人関係づくりやコミュニケーション能力が未熟な生徒、家庭学習の不足や生活習慣が十分身につけていない生徒等々、本校が直面する課題は多い。

3 これまでの研究経過と課題

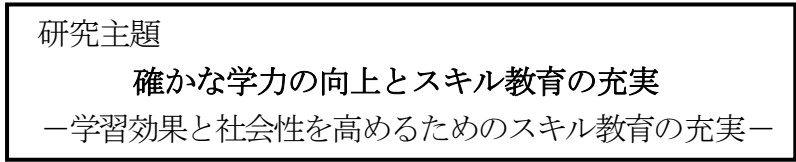
平成19年度から平成22年度までの4年間、基礎学力の向上を目指し、基礎基本の徹底を図るための指導方法の改善及び指導計画の見直しを進めた。学習意欲を高めるための評価やより客観的な到達度評価の在り方についても、スクールマスターの活用による効率的な成績処理システムを導入することにより成績通知や通知表の改善を図り、きめ細かな学習状況の通知について改善を進めた。また、学習相談を導入し、きめ細かな学習指導により家庭との共同による学習意欲づくりを進めた。

個に応じた授業改善では、到達度評価A、Cの生徒に対する指導の手立てを含めた指導計画を作成し、少人数指導や習熟の程度に応じた指導方法の改善や個に応じた教材教具の工夫を図り、わかる授業づくりを深めてきた。また、社会性を育むツールの1つとしてサプリノートを開発導入し、家庭との共同による基本的な生活習慣、家庭学習習慣、毎日の提出によるルール遵守の態度づくり、生徒理解と担任との信頼関係づくりなどに取り組み、サプリノート平均提出率9割と高定着率をみた。

これまでの研究実践は研究発表会でも一定の評価を得たが、指導方法の多様化による授業改善だけでは、基礎学力の定着は不十分であり、確かな学力の向上を図るためには、教師が多様な授業展開スキルを身につけ、確かな授業力のもとで、生徒に学習目標を達成するための、学習方法や技能、すなわち学習スキルを身につけさせる指導を徹底することの必要性が課題として残った。また、社会性を育むためには、学校全体の生活指導体制や学年・学級指導などを通して行うことの重要性、必要性が課題として浮き彫りとなった。

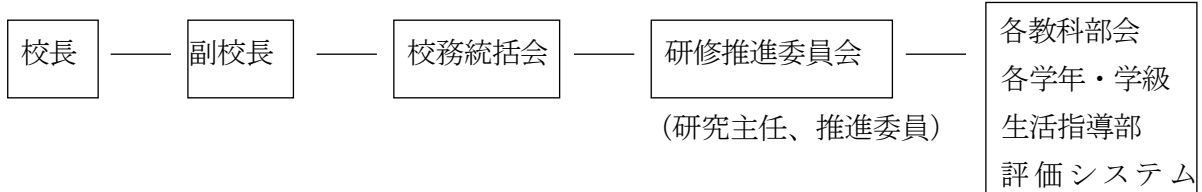
そこで、これまでの研究実践の成果を生かした継続研究をさらに深め、基礎基本の定着と確かな学力の向上、社会性の育成を目指して、本年度から次のように研究主題を設定し、実践的研究を行

う。

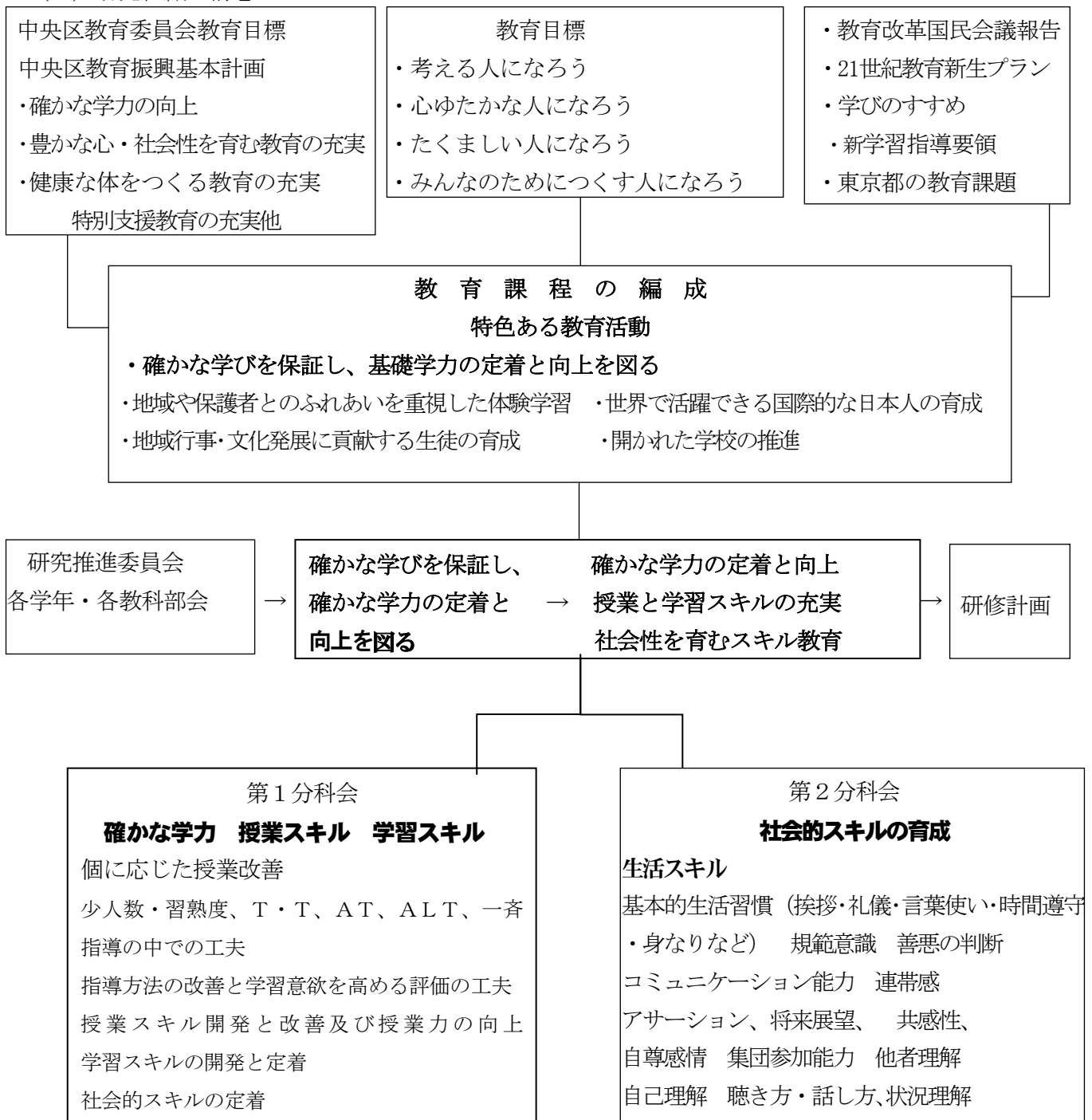


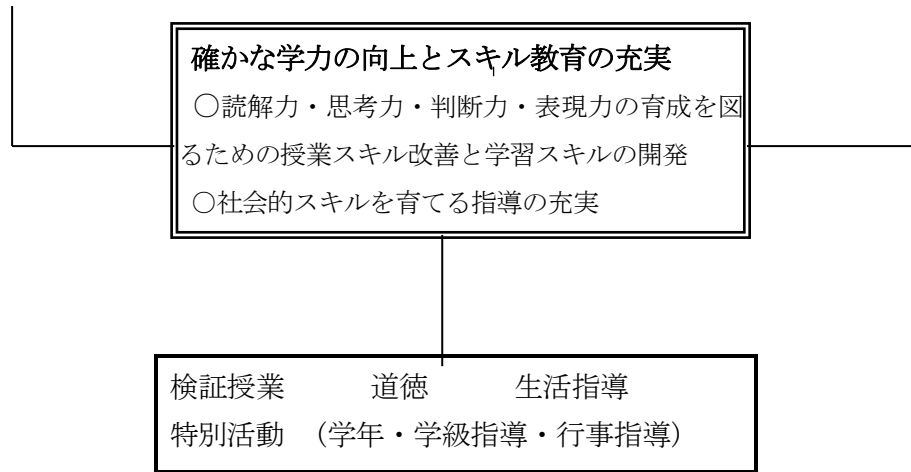
4 研究の具体的内容

(1) 研究組織



(2) 研究組織・構想





(3) 各分科会の取組内容

第1分科会

授業力を高めるための授業スキルの改善と学習目標を達成するための学習スキルの開発と定着

- ① 個に応じた授業改善→少人数授業・習熟度別授業（国・数・英・理・社）における授業スキルと指導方法の改善及び学習スキルの開発と定着
- ② 一斉指導の中での、個に応じた授業スキルの開発と指導方法の改善及び学習スキルの開発と定着
- ③ RPDCAサイクルを踏まえた、新学習指導要録に基づく年間5スパンの指導計画の作成（基礎コース、標準・発展コース）→試案モデル別掲
- ④ 年間指導計画に活用する授業スキル、学習スキルの主なものを盛り込む
- ⑤ T・T、ALT、AT導入での授業スキルの開発と指導方法の改善及び学習スキルの開発と定着
- ⑥ インフォームドコンセントを視点を置いた学習相談のさらなる充実をはかるために、実施計画、学習相談カルテ、評価情報及び集約のさらなる充実（各教科→学年・学級担任）
- ⑦ ポートフォリオによる成績通知、通知表のさらなる改善と活用
- ⑧ 研究実践の取り組みにおける生徒の変容を数量的にとらえる工夫を行い、メリット、デメリットの明確化

第2分科会

- ① 日常生活や学校生活、授業等における身につけさせたい社会的スキルを生徒の実態調査やアンケート調査により明確にする。
- ② 育むべき社会的スキルを定着、習慣化するための年間指導計画や指導指針を作成する。教育課程、生活指導指針、学年・学級経営への位置づけ（学級生活と進路の活用）、道徳・学級指導・進路指導の年間指導計画への位置づけと研究実践及び検証
- ③ 社会的スキルを育むツールとして「生活と学習のサプノート」を学年・学級経営に位置づけ学級指導、道徳、各教科、特別活動との関連も十分図りながら活用の充実を図る。
→ 提出の習慣化、家庭学習の習慣化、レディネス指導（授業の準備）、基本的な生活習慣の確立等での活用検証
→ 生徒とのコミュニケーションと信頼関係、生徒理解、生徒の生活実態の把握、家庭との連携
- ④ 三者協議会の充実を図り、自主的・自治的な生徒会活動を助長し社会性を育むコアとする

(4) 3年間の研究(研修)見通し

| 学年 履 修 | 1 確かな学力 授業・学習スキル 田中、各教科主任 | 2 社会的スキル 小森、小川、学年主任、担任 |
|--------------|--|--|
| 23 年度 | 生徒の実態把握と現状分析 授業スキルの検証と整理及び新たな導入スキルの検討 必要な学習スキルの検証と課題の明確化、指導計画試案作成、授業で必要な社会的スキルの明確化と検証実践 検証授業と検証実践のまとめと次年度構想 | 社会性チェックリストによる実態調査と分析、課題の整理 スキル教育の全体計画の作成 各教科、道徳、特別活動、進路指導、総合的な学習、生活指導指針、サプリノートの活用で育むべき社会的スキルの整理と指導計画試案の作成 取り組みのまとめと次年度構想 |
| 24 年度 | 指導計画の作成 検証授業 検証実践 教師・生徒の変容分析 メリット、デメリットの分析 まとめと次年度構想 | 教育課程への位置づけ 全体計画、指導計画の作成 各教科、道徳、特別活動、進路指導、総合的な学習、生活指導指針、サプリノートの活用での検証実践 チェックリストによる教師・生徒、保護者の変容分析 メリット、デメリットの分析 まとめと次年度構想 |
| 25 年度 | 指導計画の完成 検証授業 教師・生徒の変容とメリット、デメリット、研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表 | 全体計画、指導計画の完成 教師・生徒・保護者の変容とメリット、デメリットの分析研究のまとめと考察 今後の課題 研究発表 |

(5) 指導計画のモデル

① 確かな学力の向上を図る指導計画の作成について

本校生徒の学力(知識・理解)を大まかに分析すると、約4割強の生徒が標準的な学習内容の定着がきわめて不十分な状況にある。そこで、授業の中で、個の習熟度に応じた学習を展開するため、学習意欲を高めるためのきめ細かな評価を行い指導に活用する。基礎コースカリキュラムと標準・応用コースカリキュラムを作成し学習指導の充実を図る。

② 指導内容の5 S Pの指導計画

ア 指導内容を単元のまとまり、単元構成、関連事項で再整理し年間5SPに区切る。

基礎的な内容を中心とするものと学習指導要領に照らして標準的・発展的な内容を中心とするものとの2通りを検討する。

イ 5SPについて

年間を5SPに区切り、1SPを7～28時間で単元構成をする。

1SPは約1.5ヶ月～2.5ヶ月 時数で7～28時間

| | | | | | | | | | |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|
| 1SP | ① | 2SP | ② | 3SP | ③ | 4SP | ④ | 5SP | ⑤ |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|

★ ①③⑤では、単元テスト、まとめテスト（必要に応じて）の成績、中間・期末考査の成績、日常の学習状況の個人内評価、分析的評価等の結果を総合して、学習相談が必要な生徒・保護者とのインフォームドコンセントを行い、家庭の協力をもとに学習意欲の喚起を図る。

★ ②④では、単元テスト、まとめテスト（必要に応じて）の成績、中間・期末考査の成績、日常の学習状況の個人内評価、分析的評価、総括的評価等の結果を総合して、全生徒・保護者との面談を行い、家庭の協力をもとに学習意欲の喚起を図るとともに生活状況の改善についてもインフォームドコンセントを行う。

★ 自己評価や学習状況、成績通知は、ポートフォリオによるファイルで行い、学習状況の自己管理及びインフォームドコンセントに生かす。

★ 1SPごとに生徒の自己評価なども行っていく。

◎インフォームドコンセントとは、生徒や保護者が学習や生活状況について十分説明を受け、同意の上で次の取組を行うことである。

<基礎コースカリキュラム>

指導内容の厳選を図り、習得型の学習を主とし、指導内容への知識、理解を標準へと導く内容で構成する。

<標準・応用コースカリキュラム>

標準的な指導内容と活用・探究型の学習内容で構成する。

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|
| 標準・応用 | 1 SP | ① | 2 sp | ② | 3 sp | ③ | 4 sp | ④ | 5 sp | ⑤ |
| 基礎 | 1 SP | ① | 2 sp | ② | 3 sp | ③ | 4 sp | ④ | 5 sp | |

* 各教科で研究計画にそって検証授業を行い授業改善の成果について検証する。特に、少人数指導や習熟度別学習、T・T実施教科では、生徒の変容を数量的にとらえる研究の工夫を図る。

| | | | | | | | | | |
|-------|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| | 4月 | | | | | | | | 3月 |
| 標準・応用 | 1 SP | ① | 2 sp | ② | 3 sp | ③ | 4 sp | ④ | 5 sp |
| 基礎 | 1 SP | ① | 2 sp | ② | 3 sp | ③ | 4 sp | ④ | 5 sp |

* 少人数・習熟度別授業を実施している教科は、それぞれのSPを区切りとして、知識・理解の到達度により、コース変更を行う。

中央区授業力向上研究モデル校（日本橋中）におけるミニмумメソッドの構造

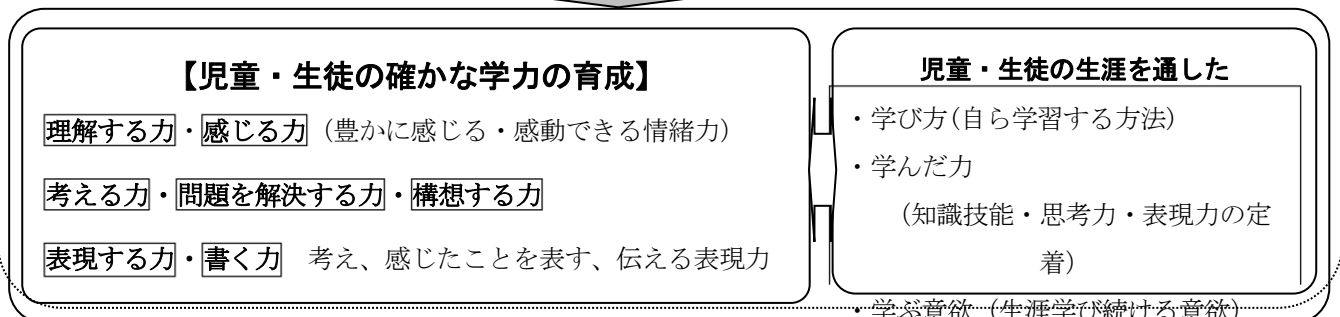
（中央区教育委員会としてのねらい）

| | |
|---------------------|---|
| 授業力向上モデル校における研究のねらい | 基本的かつ本質的・効果的な指導・学習としての中央区立学校版ミニмумメソッド（共通授業実践）を通して指導方法の研究を行い、その成果を中央区立学校に広めることにより、中央区立学校全体の授業力向上に資する。 |
|---------------------|---|

（モデル校日本橋中学校としての方向性）

| | |
|------------------|---|
| モデル校における研究の内容・方法 | 【授業の基礎・基本】【本質的・効果的な指導】を研究内容として、【OJTを活用した授業共通実践】を研究の方法として、中央区立学校版の授業力向上のミニмумメソッド（授業力向上共通実践）の指導のあり方を追及する |
|------------------|---|

| | |
|------|---|
| 研究内容 | <p>授業力向上のモデル研究（第1年次）基礎研究の理解と授業力向上モデル研究内容の焦点化</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">【授業の基礎・基本】 【本質的・効果的な指導】</p> <p>導入 ねらい・学習課題の提示（発問）の工夫、</p> <p>展開からまとめ 児童生徒の発言（学習活動）の取上げからの授業展開 児童生徒の学習活動における表現（書く・まとめる）</p> <p>板書 思考の流れが分かる板書</p> <p>授業規律 授業準備、聞く・話す姿勢 等</p> </div> |
| 研究方法 | <p>【OJTを活用した授業共通実践】 教員の共通実践項目の理解・見せ合う授業・教員間の協議・授業シート活用・研究協議 等</p> |
| 検証 | 学習力サポートテスト・児童生徒アンケート・教員アンケートの実施 等 |
| 備考 | 研究支援（学芸大学教授 児島邦宏先生、中央区教育委員会） |



中央区立小中学校への提言、ミニмумメソッドとしてのOJTを活用した全校による授業力向上の共通

③ 社会性を育むスキル教育の位置づけについて

ルール遵守・規律ある態度

凛として確かな学びで大きく伸びる日本橋、心通わせ
夢かなう学校

生徒の実態

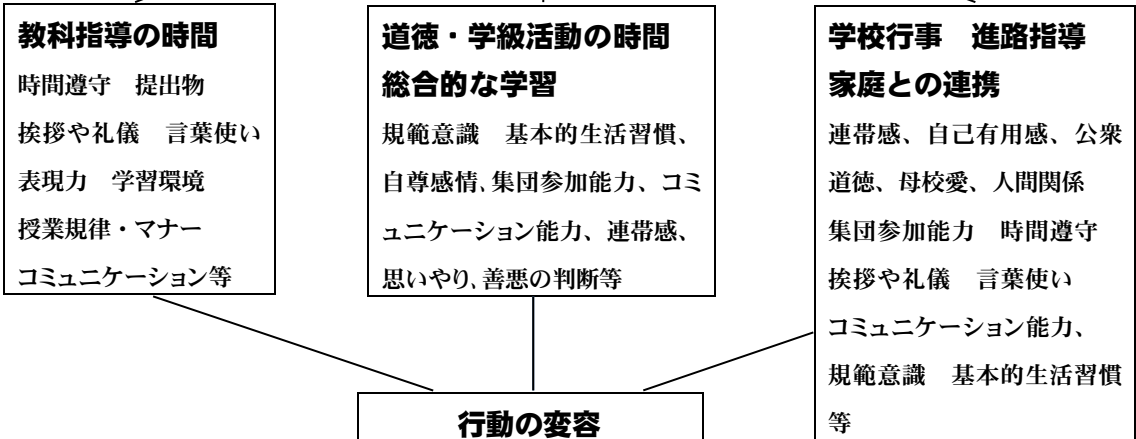
規範意識の希薄化、感情のコントロールが未熟、集団生活や授業マナーの低下、自己中心的、対人関係づくりやコミュニケーション能力が未熟等々

仮説

社会的スキルを意図的・計画的・継続的に教科指導、道徳、特別活動、総合的な学習及び生活指導等の日常の教育活動に取り入れ指導を行うことで、生徒の社会性を高め凛とした態度と豊かな心を育むことができる。

取り組みと検証

凛とした態度と豊かな心



成果

課題

生きる力

5 成果等の把握と検証の手立て

- ・ 検証授業、検証実践
- ・ 都学力テスト経年比較 区サポートテスト、校内テストの経年比較
- ・ 社会性チェックリスト・アンケート調査による経年比較